
夏祭りの約束

とろびかる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏祭りの約束

【Nコード】

N3334C

【作者名】

とろぴかる

【あらすじ】

主人公の思いがたくさんつまった短編恋愛小説です。あなたはこんな経験ありませんか？ぜひ読んでみて下さい。

あの日のことは決して忘れられない1日だったね…

夏休みに入ったばかりのとき、

私たちが付き合ってから初めて行った夏祭り。

カキ氷を食べたとき、貴方は浴衣にこぼしてたね。

金魚すくいのときはすぐに紙が破れて何回も挑戦したよね。

5年たった今でも、ちゃんと覚えてるよ。

そして、そのとき貴方が言った言葉も…

「来年も再来年もその次もずっと一緒にいようなあ」

私はそのとき、貴方とならずと一緒にいれるって思った。

でも、そんな幸せな日々は続かなかったんだよね。夏祭りから1年たった年の冬、

貴方はもう私の目の前にはいなかった。

私は知らなかったよ。

貴方が病気だった事も、私と会わなかったときに病院へ行っていたことも。

亡くなったって聞いたとき、私は目の前が真っ白になった。

なんで？どうして彼が？

疑問ばかりが頭の中をグルグルと回っていた。

そのあとすぐに病院へ駆けつけて病室へ入ると、周りでたくさんの人が悲しい顔をしていた。

後から貴方のお母さんに聞いてすべてがわかったの。

『あの子は、白血病だったの。』

彼女には迷惑かけたくないからって、ずっと黙ってたみたいなんだけど、

やっぱり自分がいつか彼女の前からいなくなってしまうのを知られるのが怖くて言えなかったみたいなの…

ごめんね。傷つかせちゃって。

あの子の分まで精一杯生きてあげて。』

貴方のお母さんはそれだけ伝えて去って行っただ。

私はあの夏祭りのときに貴方がとってくれた金魚を大切に育てる事にしたの。

朝学校に行くときや帰ってきたとき、

寝るときにはいつも金魚に話しかけてるの。

貴方の名前をつけて。

あの夏祭りのときに交わした約束は守れているよね。

だって私たちは、こんなに近くで毎日会話してるもんね。

私にとって貴方は、このちっぽけな金魚だよ。

天国の貴方にとって私は小指くらいのちっぽけな存在かもしれない。

それでも私は貴方を愛したことを後悔してないよ。

今でもずっと愛してるよ。

これからずっと天国から見守っててね。

（後書き）

読んでいただいております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3334c/>

夏祭りの約束

2010年12月29日14時19分発行